

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その9）です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

◇ 企業紹介

【MAKEOVERS 株式会社】

紙媒体から Web 媒体、商品パッケージのデザインからキャッチコピーの作成など、幅広く携わっています。競争が激しくなく、相手方と長い付き合いができることから、2004年に社長自ら関市で起業しました。営業せずとも相手方との密な関係づくりで様々な仕事ができることが強みです。

【HP】 <https://makeovers.jp/>

その手があった、か。

QUICK DESIGN AID

デザイン事務所が行う
便利な代行サービスです。
餅は餅屋に。



SDGs	取組中	
------	-----	---

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・日常でよく見る広告はどうのようにしてできているのかが気になり今回 MAKEOVERS 様の講義を受けました。私は、最初広告はデザイナーの方だけで作っていると思っていました。しかし広告は多くの人の力によって作られているものだという事に気付きました。また一番のやりがい広告は担当した会社が繁盛した時だと聞いてとても素晴らしいことだなと感じました。日常の中で当たり前のように見てきた広告がこんなに多くの人に支えられ、その分の思いが詰まっているということをこの講義で学びました。今回の講義によって広告の見方が変わったように感じます。どんな工夫がされているのかなどを見つけていければなと思います。今回は本当にありがとうございました。

・ウェブサイトを作るときにヒアリングを行なっている。そのヒアリングでは、何にお店が悩んでいるのかを聞いて広告の出し方や、お店の経営の仕方などのアドバイスもしている。そして、その後ウェブサイトを作るときには、お店の人気メニューやオーナーの普段の生活や、お店のこだわりなども聞いている。

・デザインを作る過程が知れて、特に人との関わりが大きいということに興味をもちました。デザインを作りたい方の思い、例えば、どういう印象がいいのか、なんでホームページをつくりたいのか、どの商品を買ってもらいたいのかなど、なにか意図があってデザインがあることを学び

ました。私は将来テレビなどの映像を作る仕事に就きたいと考えています。作る過程でも、伝える過程でも人といかにコミュニケーションをとれるのか、という部分を大切にしたいです。

・関牛乳さんのデザインをされているということで市販のものと学校給食のものと病院のものでデザインを変えていたり、関市出身のLiSAさんとのコラボで2つ合わせると絵合わせができたりと工夫が沢山あることを知りました。HPを作る際はそれぞれの専門家(カメラマンなど)が集まり作られるものだとしり、沢山の時間と人の力で作られているのは凄いなと思いました。

・前回お話を伺ったHIORYESさんとは違って、地域とより深い関わりをもつ企業だなと思いました。世界ではなく、地域を視点に活躍している企業だからこそより信頼されていると感じました。また、グラフィックデザインとはデザインされたものを伝えるためのデザインと聞いて、グラフィックデザインについてどんなものか知らなかったのでデザインについての知識をより深めることができました。

・虎屋のホームページを作る時に言っていた「誰にでも好かれるデザイン」を聞いて、どこかの年齢層にターゲットを絞らないデザインの仕方はすごいと思いました。休みの日や仕事での失敗などのリアルな会社の話が聞けて、将来のことを少しだけ考えることができました。また、一番気をつけていることは、住所などを間違えないということを知り、デザイン会社の繊細な仕事を知れたのでとても学ぶことが多く勉強になりました。

・今までどんな手順でHPを作っているのか全く知らなかったので案が出てから一年程完成までかかるのは長いと思いました。牛乳パックのデザインが、病院にいる子達や学校にいる牛乳の苦手な子達が楽しく食事できるように工夫されているところがすごく素敵だなと思いました。若い頃からこのような仕事に就こうと思っていたと聞いて驚きました。私はまだ何かこれをやりたいと思うことが決まっていますが色々なものを見てやりたいことをやっていきたいです。

・関牛乳のパッケージや刃物のものなど、私がよく知っているもののパッケージ作りに関わっていて、身近に感じた。企業やお店のホームページを作るのにたくさんの時間をかけていて、丁寧な作りだなと思った。お客さんにどう思われるのかを気にしながらホームページを作っているのがわかった。実際にパッケージ等を見ながら説明していただけてとてもわかりやすく、質問に答える形であり聞きやすかった。

・主にwebデザインや商品のパッケージを手がけていることがわかった。例えば、地元の人々がよく使う商品のパッケージを手がける際に利用者の年齢や場所に依りて親しみやすいデザインを手がけていることにすごいと感じた。また、コロナ渦で沢山の地元のお店がネット通販を行う中、お店の雰囲気に合わせたホームページでありながら、見せ場を意識した誰もが見やすいデザインを手がけていることにすごいと感じた。

・MAKEOVERSさんは、企業や製品の宣伝を通してまちづくりをしていました。依頼者からの話を聞いて、どこでどのような宣伝方法が良いか、何をどう書けばいいかなど、細かいところまで注意しながら誰が見ても目に留まる広告やパッケージを考えているようでした。また、ターゲットを「入院している人」や「学生」などと絞って、それにあったデザインもしているとおっしゃっていました。

・加納さんの話を聞いて、デザインをする時にその依頼主さんのことや思いを全て聞き、できるだけ仲良くなってからデザインを始めるということがとても印象的でした。なぜならデザインというのは表面的な見た目だけではなく、そこに隠された想いがあるからこそだということを改めて認識させられたからです。また、普段からデザインのことを考えていると聞いて、やはりデザインのプロとして仕事をしている人はすごいと感じました。